

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11001	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	病原微生物学 (Clinical Microbiology)				
担当教員名	岩澤篤郎				
授業の概要及び到達目標					
<p>授業の概要：インフルエンザをはじめ、MRSA などの耐性菌、ノロウイルスによる感染性胃腸炎、アデノウイルスによる流行性結膜炎など、医療施設において感染症はきわめて重要な位置を占めている。ウイルス・細菌・真菌・原虫などの病原微生物と、宿主の抵抗力としての免疫機能に関する知識を習得の上、両者のバランスによって発症する感染症を理解しなければならない。この理解のうえで、診断法や治療法、感染制御方法に関して理解を深める。これらの正しい理解は、看護師にとって不可欠である。</p> <p>到達目標：感染症の疾患名と病原微生物との関係、免疫機能、感染経路・感染様式、予防・治療法、消毒方法、検査法等に関して説明ができることを目標とする。</p>					
準備学習等					
<p>授業計画を参照にテキストの該当部分を熟読し、講義に望むこと。講義後は配布したプリント資料に従い、自習・復習すること。</p> <p>第1回講義：テキストの第1章 微生物学とは を熟読し、微生物とは何かについて理解すること</p> <p>第2回講義以降：テキストを参照し、配布したプリントで復習する。その後にシラバスに記載している講義内容について予習すること</p>					
成績評価の方法	期末試験 80%、講義の最後に実施する小テスト及び授業への取り組み 20%で評価します。				
テキスト	「コンパクト微生物学」(小熊恵二、堀田博編集：南江堂)				
参考図書	「戸田新細菌学」(吉田眞一ほか：南山堂) 「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」(藤本秀士編著：南山堂) 「ブラック微生物学」(J. G. Black : 丸善) 「イラストレイティド微生物学」(W. A. Strohl, et al : 丸善)				

備 考	<p>質問は講義終了後、受け付けます。また、オフィスアワーは事前予約の上、対応します。</p> <p>感染症や食中毒の事例が、新聞・テレビ等のメディアを通じて報道された際には、情報を収集するようにしてください。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</p>
授 業 計 画	
<p>第1回:講義の進め方のガイダンス) 第1章 微生物学とは</p> <p>第2回～5回:2章 細菌 第2回 形態と分類、培養と増殖、変異と遺伝、感染と発症</p> <p>第3回 各菌の性状と病原性(グラム陽性球菌・グラム陰性桿菌)</p> <p>第4回 各菌の性状と病原性(グラム陰性球菌・グラム陽性桿菌・抗酸菌・他)</p> <p>第5回 診断、治療</p> <p>第6回～7回:第3章 ウイルス 第6回 形態・構造と分類、増殖と培養、遺伝と変異、感染</p> <p>第7回 病原性、診断、治療</p> <p>第8回:第5章 真菌</p> <p>第9回:第6章 寄生虫</p> <p>第10回:第4章 感染と免疫</p> <p>第11回:第7章 滅菌と消毒</p> <p>第12回:第8章 感染症の予防と対策</p> <p>第13回～14回:第9章 臓器感染症 第13回 皮膚・粘膜系、呼吸器系、消化器系</p> <p>第14回 泌尿生殖器系、神経系、血液・リンパ及び全身感染症、その他</p> <p>第15回:まとめ</p> <p>授業の進捗状況・理解度などにより変更する場合があります。</p>	